

平成31年度 学校自己評価

(計画段階 ←実施段階)

福岡県立苅田工業高等学校長 印

学校運営方針		学校運営方針(4月)		評価(3月)
昨年の成果と課題		志と自律心・思いやりの心溢れる、国際的視野をもって未来の地域産業を支えるものづくりのスペシャリストの育成		
		年度重点目標	具体的方策	
昨年の成果として部活動の活性化、苅田町イルミネーション事業に代表される地域との連携等、生徒主体の教育活動が展開できるようになった。 今年は、平成から令和へと変わり、時代は確実に動くと考えられる。そんな時代の変化の中にあっても着実に「チーム苅田」としての教育活動を展開し、豊かな感性を磨き、自己の課題を発見し主体的向き合い、学んだことを活用して解決していく態度を持った生徒の育成を目指す。また、「社会に開かれた教育課程」を視点に、ものづくり、部活動、地域連携をさらに活性化させ、生徒の主体的な活動を促すとともに、教員自身のものづくり技術のスキルアップ、モチベーションアップにつなげ、その結果を学校ブランドとして広く情報発信する。		学びの質を高めるための授業を展開し、確かな学力の育成を図る(step by step)  自主自立・規範意識の向上・5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の徹底(凡事徹底(当たり前になる))  いじめのない安心・安全な学校づくりを推進し、思いやりの心の醸成に努める(ものづくりの心)  実体験を重視したキャリア教育の推進と国際的視野をもった地域産業に根ざした人材の育成  地域に開かれた魅力ある学校づくりとブランド化  教職員のスキル継承と教育力・指導力の向上	○朝読書と授業規律の確立による学ぶ意欲の向上 ○学んだことを活用し、自らの課題を解決する教育活動の推進(何が出来るようになるか)(できることどう使うか) ○旺盛な好奇心と創造力をかきたてる学習活動の推進 ○「ものづくり」への興味関心を育てる工業教育の推進 ○「鍛ほめ福潤メソッド」を取り入れた教育活動の実践  ○「挨拶」「時間厳守」「服装整備」等、基本的な生活習慣の確立 ○部活動、生徒会活動等の活性化による自主・自立、母校愛と協働の精神の涵養 ○5S徹底による工業人としての資質の向上(躰・清掃活動を重点化する)  ○学校いじめ防止基本方針の共通理解のもとでのいじめ未然防止、早期発見・早期対応 ○人権教育・同和教育・命の教育の推進 ○合理的配慮の必要な生徒の情報共有と支援  ○資格取得推進と進路マップによる進路意識の醸成(チャレンジ精神) ○インターンシップや「産業人材育成事業」を活用した地域連携の体験教育の推進 ○生徒自身の特性を生かせる進路希望の実現 ○国際感覚を身につけるための修学旅行の実施  ○「ものづくり」を通じた地域貢献事業の推進と企画力・運営能力・創造力の育成 ○地域・中学生・保護者への学校情報の積極的な発信とブランド化 ○地域のボランティア活動へ積極的参加  ○校内外の研修やOJT等による教職員の学習指導力及び生徒指導力の向上 ○校内マスターを活用したものづくりのスキル向上 ○アクティブラーニングとICT実践能力の向上 ○危機管理・災害対策の実践能力向上(危機管理マニュアルの点検とその徹底)	

部所名	課名	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務	教務	授業規律の遵守	本校の授業規律に対し共通理解を持ってもらうため、年度初めの職員会議等で授業規律を確認し、授業心得を教室掲示することでその徹底を図る。  授業の開始・終了時の挨拶を統一し、メリハリやけじめのある授業を展開させる。また、「鍛ほめ教育メソッド」を取り入れた教育活動の実践を推進する。			
		基礎学力の定着と向上	「ものづくり」への興味関心を高め、工業教育における基礎学力の重要性を理解させることで、その定着と、向上を図る。  5Sの徹底や、継続した教具等の持ち帰り指導、遅刻・欠席「0」を目指す取り組みを行うことで、基本的な生活習慣を身に付けさせる。			
	研修	授業改善に向けた意識改革	校内外の研修への参加を積極的に促し、学習指導力の向上に役立てる。  教員相互間の研究授業、公開授業週間への参観を促し、学びの質を高めるための授業改善を推進する。			
		読書習慣の定着	朝読書の時間をしっかり確保し、読書習慣を身につけさせる。  図書館における資料と設備を充実させ、図書館教育の充実を図る。			
	生徒指導部	生徒指導課	基本的な生活習慣の確立を図る	遅刻・欠席・早退の減少を図るため、自学自習の指導を学年と協力し徹底して行う。登下校指導の強化を図り、問題行動の未然防止と交通マナーの向上を図る。  生徒の情報収集・発信を行い、職員間の連携を密にした生徒指導を行う。		
			関係機関と連携した生徒指導を行う	警察・自動車学校等と連携した交通安全教室を実施し、交通事故の未然防止に努める。非行防止教育を効果的に行うため、各種講演会の内容充実に努める。  関係機関・他分享・職員間の連携を密にし指導の充実、問題行動の未然防止に努める。また、PTAとも連携し地域のイベントの巡回や登校指導を行う。		
生徒会		生徒会・委員会活動・部活動の活性化を図る	生徒会役員、各種委員及びリーダーの育成を図り、学校行事における自主的な運営を支援する。また、ボランティア活動や挨拶運動・薬物乱用防止キャンペーンなどにも積極的に参加する。  部活動集会を行い、他の生徒の模範となるよう自覚を促す。各部活動の活動状況や生徒の頑張りを校内外に積極的に広報し、地域や企業、中学校へPRする。			
		保健課	学習環境の整備と安全管理を行う	美化委員の清掃点検を実施し、5Sの徹底を図る。各種講演会を実施し、安全教育の周知徹底を図る。  保健だよりを定期的発行し、季節に対応した体調管理を働きかける。登下校や部活動での安全対策を図る。		

平成31年度 学校自己評価

(計画段階 ← 実施段階)

福岡県立苅田工業高等学校長 印

学校運営方針		学校運営方針(4月)		評価(3月)
志と自律心・思いやりの心溢れる、国際的視野をもって未来の地域産業を支えるものづくりのスペシャリストの育成		年度重点目標		
昨年の成果と課題		具体的方策		
<p>昨年の成果として部活動の活性化、苅田町イルミネーション事業に代表される地域との連携等、生徒主体の教育活動が展開できるようになった。</p> <p>今年は、平成から令和へと変わり、時代は確実に動くと考えられる。そんな時代の変化の中にあっても着実に「チーム苅田」としての教育活動を展開し、豊かな感性を磨き、自己の課題を発見し主体的向き合い、学んだことを活用して解決していく態度を持った生徒の育成を目指す。また、「社会に開かれた教育課程」を視点に、ものづくり、部活動、地域連携をさらに活性化させ、生徒の主体的な活動を促すとともに、教員自身のものづくり技術のスキルアップ、モチベーションアップにつなげ、その結果を学校ブランドとして広く情報発信する。</p>		<p>学びの質を高めるための授業を展開し、確かな学力の育成を図る (step by step)</p> <p>自主自立・規範意識の向上・5S (整理・整頓・清潔・清掃・躰) の徹底 (凡事徹底 (当たり前になる))</p> <p>いじめのない安心・安全な学校づくりを推進し、思いやりの心の醸成に努める (ものづくりの心)</p> <p>実体験を重視したキャリア教育の推進と国際的視野をもった地域産業に根ざした人材の育成</p> <p>地域に開かれた魅力ある学校づくりとブランド化</p> <p>教職員のスキル継承と教育力・指導力の向上</p>	<p>○朝読書と授業規律の確立による学ぶ意欲の向上 ○学んだことを活用し、自らの課題を解決する教育活動の推進 (何が出来るようになるか) (できることどう使うか) ○旺盛な好奇心と創造力をかきたてる学習活動の推進 ○「ものづくり」への興味関心を育てる工業教育の推進 ○「厳ほめ福園ソッド」を取り入れた教育活動の実践</p> <p>○「挨拶」「時間厳守」「服装整頓」等、基本的生活習慣の確立 ○部活動、生徒会活動等の活性化による自主・自立、母校愛と協働の精神の涵養 ○5S徹底による工業人としての資質の向上 (躰・清掃活動を重点化する)</p> <p>○学校いじめ防止基本方針の共通理解のもとでのいじめ未然防止、早期発見・早期対応 ○人権教育・同和教育・命の教育の推進 ○合理的配慮の必要な生徒の情報共有と支援</p> <p>○資格取得推進と進路マップによる進路意識の醸成 (チャレンジ精神) ○インターンシップや「産業人材育成事業」を活用した地域連携の体験教育の推進 ○生徒自身の特性を生かせる進路希望の実現 ○国際感覚を身につけるための修学旅行の実施</p> <p>○「ものづくり」を選んだ地域貢献事業の推進と企画力・運営能力・創造力の育成 ○地域・中学生・保護者への学校情報の積極的な発信とブランド化 ○地域のボランティア活動へ積極的参加</p> <p>○校内での研修やOJT等による教職員の学習指導力及び生徒指導力の向上 ○校内マイスターを活用したものづくりのスキル向上 ○アクティブラーニングとICT実践能力の向上 ○危機管理・災害対策の実践能力向上 (危機管理マニュアルの点検とその徹底)</p>	

部所名	課名	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
キャリア教育部	進路指導課	進路実現に向けた学力の向上	就職問題集やSPI問題集などの活用を図るとともに校外模試等を積極的に利用し学力向上を図る。				
			各企業・学校の入試、選考方法に対応できるよう情報を収集し生徒への発信を積極的に行う。				
		キャリア意識の向上	「進路指導の手引き」を活用し、自ら目標をもたせ取り組みよう支援体制の充実に努める。				
			進路閲覧室でPCを開放し、インターネットを活用した企業情報・進路情報の収集能力を育成する。				
	進路希望の実現	県内外の企業訪問を行い、企業が求める人材や仕事内容等を聞き取りミスマッチのない進路指導に生かす。					
		進学希望者にはオープンキャンパスや説明会への積極的参加を促し、早期より志望校対策できるよう意識向上を図る。					
広報・情報課	本校の取り組みをスピード感をもって広く発信	HPや校内掲示板の迅速な更新、管理運営を行う。					
		中学生の心に響く学校案内の充実に努め最新の情報発信を行う。 中学校とのパイプを充実させ訪問教員の固定化を図る。					
企画課	生徒が落ち着いて学習に取り組める環境作りのため、PTAと連携しながら、スムーズな学校行事等の企画運営に努める。	各行事への迅速な取り組みと職員への周知徹底を図る。					
		防災教育を推進し、自己で判断できる能力を育む。地震・火災等を想定した実効性の高い避難訓練を実施し、防災意識を高める。					

平成31年度 学校自己評価

(計画段階 ←実施段階)

福岡県立苅田工業高等学校長 印

学校運営方針		学校運営方針(4月)		評価(3月)
昨年の成果と課題		志と自律心・思いやりの心溢れる、国際的視野をもって未来の地域産業を支えるものづくりのスペシャリストの育成		
		年度重点目標	具体的方策	
<p>昨年の成果として部活動の活性化、苅田町イルミネーション事業に代表される地域との連携等、生徒主体の教育活動が展開できるようになった。</p> <p>今年は、平成から令和へと変わり、時代は確実に動くと考えられる。そんな時代の変化の中にあっても着実に「チーム苅田」としての教育活動を展開し、豊かな感性を磨き、自己の課題を発見し主体的向き合い、学んだことを活用して解決していく態度を持った生徒の育成を目指す。また、「社会に開かれた教育課程」を視点に、ものづくり、部活動、地域連携をさらに活性化させ、生徒の主体的な活動を促すとともに、教員自身のものづくり技術のスキルアップ、モチベーションアップにつなげ、その結果を学校ブランドとして広く情報発信する。</p>		<p>学びの質を高めるための授業を展開し、確かな学力の育成を図る(step by step)</p> <p>自主自立・規範意識の向上・5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の徹底(凡事徹底(当たり前になる))</p> <p>いじめのない安心・安全な学校づくりを推進し、思いやりの心の醸成に努める(ものづくりの心)</p> <p>実体験を重視したキャリア教育の推進と国際的視野をもった地域産業に根ざした人材の育成</p> <p>地域に開かれた魅力ある学校づくりとブランド化</p> <p>教職員のスキル継承と教育力・指導力の向上</p>	<p>○朝読書と授業規律の確立による学ぶ意欲の向上 ○学んだことを活用し、自らの課題を解決する教育活動の推進(何ができるようにするか)(できることまどう使うか) ○旺盛な好奇心と創造力をかきたてる学習活動の推進 ○「ものづくり」への興味関心を育てる工業教育の推進 ○「厳格ほめ福園メソッド」を取り入れた教育活動の実践</p> <p>○「挨拶」「時間厳守」「服装整備」等、基本的な生活習慣の確立 ○部活動、生徒会活動等の活性化による自主・自立、母校愛と協働の精神の涵養 ○5S徹底による工業人としての資質の向上(整・清掃活動を重点化する)</p> <p>○学校いじめ防止基本方針の共通理解のもとでのいじめ未然防止、早期発見・早期対応 ○人権教育・同和教育・命の教育の推進 ○合理的配慮の必要な生徒の情報共有と支援</p> <p>○資格取得推進と進路マップによる進路意識の醸成(チャレンジ精神) ○インターンシップや「産業人材育成事業」を活用した地域連携の体験教育の推進 ○生徒自身の特性を生かせる進路希望の実現 ○国際感覚を身につけるための修学旅行の実施</p> <p>○「ものづくり」を通じた地域貢献事業の推進と企画力・運営能力・創造力の育成 ○地域・中学生・保護者への学校情報の積極的な発信とブランド化 ○地域のボランティア活動へ積極的参加</p> <p>○校内外の研修やOJT等による教職員の学習指導力及び生徒指導力の向上 ○校内マイスターを活用したものづくりのスキル向上 ○アクティブラーニングとICT実践能力の向上 ○危機管理・災害対策の実践能力向上(危機管理マニュアルの点検とその徹底)</p>	

部所名	課名	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学年	1学年	基本的生活習慣の確立	身の回りのことは自分でする習慣を定着させる。 自己(健康)管理をすることで、欠席・遅刻・早退をしないように指導する。		
		基礎学力と学習習慣の定着	毎日少しでも自宅で学習する習慣を身につけさせる。 朝読書をする事で、国語の能力を向上させる。		
		将来を見据えた目標設定	卒業後の進路を考えさせ、目標を持たせる。 様々な特色ある企業を紹介し、幅広い進路選択ができるように指導する。		
		中核学年として学校活性化に貢献する	リーダー、生徒会を中心とした学年運営を行い、生徒の自主・自立を図る。 工場見学・インターンシップを実施し、職業観の醸成を図るとともに、地域連携を深める。		
	2学年	進路意識を高め、社会人としての素養を身につけさせる	個人面談や学年集会等を利用して、進路について考える機会を増やす。 修学旅行を通して、マナー・モラル及び国際感覚を身につけさせる。		
		生徒の多様な希望進路の実現	進路決定に向け、情報提供と家庭との連携を密に取り進路指導にあたる。 個々の希望進路に合ったスキルの向上と面接指導等を計画し実施する。		
	3学年	社会人として通用する生徒の育成	学校行事への主体的な参加を通じて、最高学年としての責任ある行動がとれるよう指導する。 社会人としてのマナー、礼儀、生活習慣等を身につけさせる。		
		機械科	ものづくりの技術向上と資格取得の奨励、安全教育の徹底	各種ものづくりに関する競技大会に参加することで、より高いレベルの技術・技能を身につけさせる。 実習等では毎回服装点検を徹底すると共に危険予知の重要性を指導し実習中における事故発生ゼロを目指す。	
	地域や産業界に密着した学科を目指す		ものづくり教室や出前授業などを積極的にを行い、地域に向けて科をアピールする。 産業界に必要とされるような中堅技術者の育成を目指す。		
工業科	資格取得による専門知識の向上と実践的な技術を習得した中堅電気技術者の育成を目指す	卒業までに全員が第2種電気工事士の取得を目指し、学習活動を展開していき、さらに上級の資格(2級電気工事施工管理技士・電験三種)にも積極的に挑戦させる。 産業界の要請に応えられるような実践的な電気技術者を育成できるように、ものづくりなどの技能体験を通して技術・技能を習得させ、創造力豊かな人材を育てる。			
	安全教育の徹底と地域との連携を深める活動の推進	5Sを徹底し、安全管理の意義と必要性を伝え、実習のなかで実践できるように指導する。また、校内マイスターを活用し、ものづくり技術の伝承を行い、職員間で、実践力を養う。 地域に密着した活動(エコデンレース・イルミネーション)を推進し連携を深める。また、出前授業などを通して中学生に電気科の魅力を発信する。			
	情報技術科	基礎的な技術・技能の向上及び進路実現できる資質向上	基礎的な学力、技術・技能の向上をはかる。 各種資格取得に向けて積極的に取り組ませることにより、進路意識の高揚と自己実現を目指す。		
情報及び電気・電子系技術者の育成		産業現場が求める各種の基礎技術・技能を習得させる。 産業人材育成事業等を通じて「ものづくり」の実践的な技術を高めるとともに、地域貢献を果たす。			